

今年の夏は、度重なる台風の襲来を受けました。幸い、ここ平塚には直接上陸することもなく、田園のイネたちは、秋の収穫へ向けすくすくと成長しつつあります。



実りを進めつつある稲穂、深々と首を下げ、挨拶をしているようです。



背丈を計測するメジャーが行方知れず、イネに隠れてしまっています。



豊かな収穫が期待できそうです。



田植の時、片手で植えこんだ数本の苗、今ではこんなに多くのお米を付けています。イネの茎が緑を保っています。お米は養分を吸収し、まだまだ成長を続けます。



ポールと比べ、頼りなかったイネですが、今ではこの通り負けていません。大豊作の予感がします。



お米の品種は、きれいでおいしい「キヌヒカリ」です。

道路を挟んだ向かいの試験農場、イネも大きく成長しています。品種は「サトジマン」



私たちの「キヌヒカリ」と比べて、葉が稲穂より抜き出ています。同じイネでも品種によって姿を変えています。



沢山の「サギ」が飛来していました。水田の小動物を食べに来ていたのでしょうか。

稲穂の先端部です。しっかりしたモミを付けています。



調査（１） 稲穂をバラスとこのようになります。上の写真と比較してください。



中心の茎の先端に7粒のモミを付け、左右に5本ずつ枝分かれさせました。

(調査2) モミ粒を数えます



1本のイネにモミ粒が1 2 3個ついていました。これがお米の粒になります。

(調査3) モミの付き方



1粒ごとや2粒、3粒とまとまって付いているものがあります。

(調査4) お米の粒を比べます。



モミの付いたお米です。
田んぼの中の稲穂には、この状態で
イネの茎についています。
前のページを参照してください。



モミを無理に剥きました。
米粒には緑色が見えます。
モミと粒の間の「ヌカ」は分かりま
せん。
まだまだ、未熟なお米です。



我が家で食べているキヌヒカリ
の白米です。
粒が欠けているのは、胚芽の部分
です。精米の過程で取れてしまいま
した。
このようなお米にするには、
・モミを取り除く（脱穀）
・ヌカを取り除く（精米）
の工程を経ねばなりません。